

コース内容 呼吸器科

診療科の紹介

当科は平成 14 年 2 月、現在地に新病院開院時に新設された呼吸器外科に続いて、同年 9 月開催された呼吸器疾患の内科的診断・治療を担当する診療科です。

また、当院は、日本呼吸器学会認定施設(指導医:中村守男)、日本呼吸器内視鏡学会認定施設(指導医:成毛聖夫呼吸器外科部長)となっています。

研修責任者

中村 守男 日本呼吸器学会呼吸器専門医・呼吸器指導医、
日本内科学会総合内科専門医、
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医、
日本感染症学会 ICD

指導医

結城 秀樹 日本呼吸器学会呼吸器専門医、
日本内科学会認定内科医、
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医、
日本感染症学会 ICD

中谷 理恵

呼吸器疾患の現状

呼吸器内科医が扱う疾患は、肺癌を主とする悪性疾患、喘息を含むアレルギー性疾患、感染症、ARDS などの集中治療を要する疾患、COPD などの慢性疾患、睡眠呼吸障害と多岐に及びます。

台東区および周辺の城東地区は、都内においても高齢者の比率の高い地域です。高齢化社会の疾病構造において、COPD、呼吸器感染症、肺腫瘍などの呼吸器疾患は急増しております。

研修の目標

呼吸器疾患の診療には、これらの多彩な病態の十分な理解と経験をもとに、慎重な観察から治療を展開することが必要となります。治療も薬物療法、酸素療法、人工呼吸療法、理学療法と広範囲に及びます。

当科での研修の目標は、この呼吸器診療に必要な知識、技術を習得することにあります。主なものを列挙いたします。

- (1) 検査手技を習得する。
胸腔穿刺、胸腔ドレナージ、気管支内視鏡(気管支肺生検、気管支肺胞洗浄、内視鏡的気道吸引)、気管支挿管や血管確保などの緊急処置
- (2) 胸部画像診断(X線、CT、各種核医学検査)を習得する。
- (3) 疾患の病態生理を理解し、治療計画を立案する。
呼吸器感染症、肺癌、間質性肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患等
- (4) 在宅酸素療法の適応を理解し、導入する。
- (5) 人工呼吸器(NIPPVを含む)の管理をする。
- (6) 後輩研修医の指導を行うとともに、関連学会に出席、発表する。

日本内科学会認定内科医取得後、日本呼吸器学会の会員歴3年、認定施設(当院)での研修3年と学会業績を満たせば日本呼吸器学会専門医の申請・受験資格が得られます。

日本呼吸器内視鏡学会の会員歴5年、業績・認定施設(当院)での実績を含む診療実績を満たせば気管支鏡専門医の申請・受験資格が得られます。

週間スケジュール

気管支鏡検査	:月曜日午後、水曜日午後
病棟カンファレンス	:月曜日午後
内科カンファレンス	:月曜夕方
呼吸リハビリテーション カンファレンス	:隔週火曜午後
呼吸器カンファレンス	:水曜夕方

初期臨床研修

循環器科の研修と併行して、指導医の下、病棟業務を中心に研修します。入院患者4～5名程度を担当し、基本的診療能力を身につけることを目標とします。また病棟カンファレンスや呼吸器カンファレンス、回診などに参加して、各種の疾患の理解を目指します。

後期臨床研修

指導医の下、入院患者を担当します。初期臨床研修医とは異なり、主体的に検査や治療方針を決定することが求められます。担当以外の症例についても、カンファレンスや回診の場を利用して積極的に経験することに努めます。また、一般内科・総合内科外来で安定期の喘息や COPD など、外来での管理が中心となる疾患についても研修が可能です。さらに気管支鏡検査に参加し、基本的な手技(内視鏡の挿入から内腔観察まで)を習得することを目指します。

研修後の進路

病院・診療科の状況にもよりますが、ご本人の希望があり当科でも認められた方には、医員として当院に就職し、専門医を目指してさらに研鑽を積む方向のご相談を受けることが可能です。また、さらに専門性の高い研修や学位取得を目指す希望のある方には、慶應義塾大学医学部呼吸器内科での研修に応募できるようご支援いたします。